寺崎組新聞
第百二十三号
発行所　寺崎組新聞社

そして組長は来なかった・・・

159回組会報告

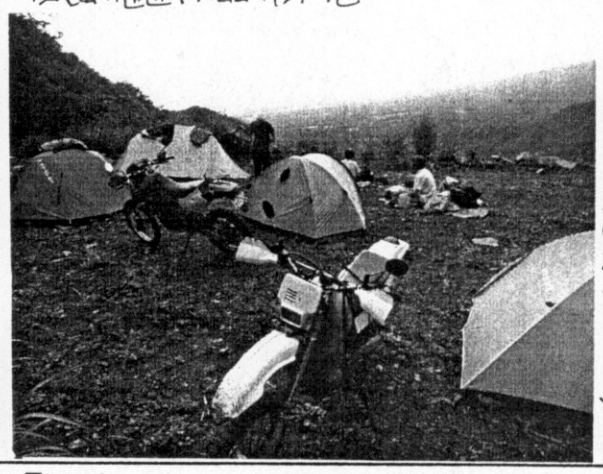
組会の前日、以前より体調不良を訴えていた組長から、大事をとって組会を欠席する旨、メールで連絡が来た。体調不良で組長が組会を欠席するのは前代未聞であり、ちょっと心配でもあるが、取りあえず、集合地にいつもの様に下道（青梅街道経由）で向かった。

集合地に集まったのは、自分と地下鉄、アベ、オガタ、ロッカー（敬称略）の5名。各自昼飯をとり、組長の体調を心配しつつ、どこへ行くかを検討した結果、信州峠手前から野宿地を探しながら横尾山林道を抜けて、須玉のスーパーやまとで買い出しすることになった。

はっきりしない天気のためカッパを着て、いつも通り13時過ぎに集合地を出発。案の定、林道入り口を行きすぎて戻る羽目に・・。横尾山林道は締め固められた良い林道で、イイ按配に速度は上がる。途中、2回時間調整の休憩を取ったが、高須林道に出る手前の2回目の休憩地は、八ヶ岳と甲斐駒両方と下界が見渡せる絶景で、林道脇ではあるが、全員一致で本日の野宿地はここに決まった。

そうとなれば話は早い、舗装の高須林道を下り、県道605号から619号で須玉へ。買い出し後は同じ道を引き返し、パパッと野宿地へと思ったら、高須林道の横尾山林道入り口を行き過ぎてしまい、またもや戻りとなる。組長がいないとスムーズに進まないものだ。

ササッとテントを張って、絶景を眺めながら、いつも通りの宴会開始。ひらりんから明日の買い出し地で合流したいとのメールがあり、検討の結果、明日は少し北上し、買い出しは小海のナナーズすることになった。宴会がいつ終わったのか記憶にないまま、朝を迎えた。（どうせ、いつもの様に、ダジャレって、歌って、駅名連呼したのだろう・・）


横尾山林道途中1泊目キャンプ地

2泊目 茂沢林道分岐終点キャンプ
参加者 ヤセラリンでした。

2日目は信州峠を越えて川上へ。ナナーズから県道68号を右折し、川上2小横から林道を上がり、林道相木川上線を横切りそのまま上り続けてみた。かなり上がって、絶好の野宿地で行き止まり終点となる。機会があれば、ここでも野宿をなどと考えながら引き返し、林道相木川上線へ。この林道も締め固められた良い路面で、某氏がチェーンを落とした所を通り過ぎ、昨日に続きイイ按配にどんどん速度を上げる。途中の林道脇の日陰で昼食。結構な台数のオフロードバイクが通り過ぎていった。その後南相木村へ下り、途中で雨になりカッパを着て、県道2号で小海へ向かい、買い出し待ち合わせ場所のナナーズ小海店に午後2時前に到着。間もなくひらりんも到着。買い出し後は、県道2号から12号で北相木村へ。白岩集落の橋の手前から、野宿地を探しながら茂来林道を上がる。最初にあった大きな分岐を左へ折れてみると、しばらく行って広場で終点になった。何者かが、アクセルターンの練習をしたため、掘れた跡があったが、本日はここで野宿することに。

そして2日目も、いつ宴会が終わったのか、記憶がないまま朝を迎えた。

撤収後は白岩まで下りて、ロッカーさんは国道141号方面へ、残りの関東勢は武道峠方面へ向かい、組長のいない組会はお開きとなった。

やはり組員だけだと、ヌタ道、ゲロ道、藪こぎなどのアグレッシブな林道へ分け入る様なことがなく、改めて組長の存在の大きさを感じた組会だった。（と、取りあえず原稿には書いておこう・・・・）

記　ゴ三浦

塩川ダム組会一人一言

●やはり、楽しく走りました！（オガタ）

●今回は、組長不在ではありましたが、ゴ三浦さんの熱い走りを見た。（地下鉄）

●今回は前代未聞の、組長が体調不良による欠席となりました。が、しかし、いつもと同じ様な行動パターン。初日から3日間、組長代理を務めて頂いた三浦さん、お疲れ様でした。林道でのシャキッとした走りがたまらなく良かったです。寺崎組もいよいよ今後の行く末を考えなければならない事を痛切に感じた組会でした。（アベ）

●組長のいない組会は非常に寂しいです！（ロッカー）

●組長不参加の組会でしたが、仕切って頂いたゴ三さんお疲れ様でした。夏野菜てんこ盛り料理の宴会も楽しめました。次回は年末かな？（ひらりん）

三重オフ会報告

R157、岐阜県根尾村から県境の温見峠を越え福井県越前大野市へ抜けるルートは、日本有数の廃村地帯が連なる秘境街道だ。反面その山深さと人の気のなさから、上手く時期を選べば日本屈指の紅葉街道となるルートなのだ。何十キロにもわたり燃えるほどに色づく深い谷を抜けると、バイクの色さえも変わってしまうように感じられる程だ。今回のオフ会はそのルートをメインにジムニーで回ることにした。11月15日、集合場所の関ヶ原コンビニにJB23のりょうふうさんとアクティ4WDのカバさんとJA11Cのワタシの3名が集まった。23とアクティは浜松出身、JA11もそこで大手術を受けた経験があり、兄弟車の関係が成り立つ3台なのだ。

2&4のあのお方に心を馳せつつ北へ向かって出発とあいなった。揖斐川町で買い出しを済ませ、谷汲村から根尾村へ抜ける林道に入る。ネットでの下調べでは通行止めとの情報だったし路肩の看板もそうなっていた。なんということも無くあっさりと峠に到着、脇の東屋で遅めの昼食となった。気まぐれな小雨が車座に冷たく吹き寄せ、遥かな山隅に白い雪化粧が望めた。根尾の最終GSでガソリンを補充し峠の道路状況を確認すると、2日前に降った雪が山を白く染めたが路面は大丈夫だろうとのことだった。国道は現在改修工事中でう回路を廻って北上した。深い谷間をくねりつつ林道で峠を2つ超える。少しばかり時期を過ぎた紅葉が目を楽しませてくれる。廃村跡を過ぎ川を渡ると国道に再合流する地点にゲートが設置されていた。積雪のため本日より冬季閉鎖と表記されていた。朝のネット情報では通行可だったので設置されたばかりなのだろう。〝行けなくなったら戻ればいいんじゃない〟との声に異論もなく先を目指すことにした。

クネクネ道を進みながら道を横切る沢をいくつか渡る、傾斜がきつくなるあたりから路面に雪が現れた。3台ともちろん夏タイヤ、4WDを信じて斜面を上がる。積雪が15センチを超えたあたりでカバさんが遅れだした。彼のタイヤは頭髪と良い勝負なのだ。峠まであと1キロ程だろうか？少し待って来ないようなら救出に向かおうかと車を停車させ3分程経った時、突然エンジンがストールした。全ての電装系が死に、エンジンがかからない。バッテリー、ヒューズを確認するも異常なし。ジャンピングを依頼するためテクテクと雪道を下る。15分程下るとアクティがコーナーでスタックしていた。もう峠越えは不可能なのでりょうふうさんの車に同乗しジムニーの救出に向かった。コードを繋ぎセルを廻すもうんともすんとも言わない。時刻は3時をまわりまもなく夕刻が訪れる。動かぬジムニーは国道の真ん中に打ち捨て、テントの張れそうな場所まで2台で下ることを決断した。突破したゲートの脇に土砂捨て場があったのを覚えていた。ゲートを開けて進む車がいればジムニーの状況を進言することが出来るので、そこの空き地はベストポジションだと判断した。

テントの設営と焚火の準備をりょうふうさんに依頼し、カバさんと携帯の電波を捜して元の道を下った。深い谷はすでに闇につつまれ不安感と絶望感にさいなまれつつ廃村地帯を徘徊した。30キロ程下ったあたりで携帯のアンテナが立った。JAFに連絡し（私、会員です。）翌朝の積車救出を依頼するも、返事はNO。通行止めになっている場所には行けないので警察か消防を呼べとの事。脳ミソは怒りにワナワナと震え耳から鼻から飛び出さんばかりであったが、オトナの対応が取れたのは還暦のなせる業なのであろう。ただその反動がキャンプ地に戻ってからの、多数の組員に対する悪口の羅列に至ったことはお許しいただきたい。焼いたアッパ貝とサザエの腹ワタを苦々しく噛みしめながら、晩秋の夜は冷たく更けていった。

夜が明けると怒りはどこかへ去っていた。すべては我が身にふりかかったことと受け入れ、オノレデ解決する決心をした。ありがたいことに助けてくれる友人が2人もいる。陽が当たり凍結が緩むのを待ってレスキュー用具とともに国際救助隊はりょうふう号で現場へ向かった。最も近い根尾の町までは50キロもある、細い峠道とクネクネの断崖絶壁道路を延々と牽引せねばならないと思うとゲンナリしたのは事実だ。ジムニーの周りの雪はそのままで通過車両の痕跡は無かった。車を転回させるためスコップで雪を掘り除ける。30分程大汗をかきながら押しては引いての繰り返し、車はようやく下り向きになった。仰ぎ見た青空を背景に能郷白山の斜面には真っ白な樹氷が美しく輝いていた。ジムニーどうしにロープを掛け、ゆるゆると下りだす。ブレーキのサーボが効かないので急カーブが怖い。サイドを併用しロープの張り具合を見ながら雪道を慎重に下る。道に雪が無くなる頃、引っ張り掛けを試みた。2速に入れ半クラを当てセルを廻す、1回、2回、奇跡が起こりエンジンがウナッタ。この時の喜びをどう表そうか！思いっきりホーンを鳴らしパッシングを浴びせる、気付いて止まった2人にも満面に笑顔があった。

キャンプ地に戻ると10時だった。エンジンを止めるともう2度と動かない気がして、廻しっぱなしで撤収を開始した。この予感は当たりで、戻った実家でそのとうりになった。止まらぬようにお祈りをしながら廃村地帯を下る。オーディオを切り、ファンも止め、電力消費を極力おさえて下る。トンネルでライトをつけると一瞬ストールしそうになる、スモールのみでトンネルを抜ける。電装系のどこかにトラブルをかかえたのだろう、なんとか家までモッテくれと祈りつつ走る。旧徳山村側へ峠を越えるとダムサイトにはまだ十分な美を保った紅葉が溢れていた。R303を坂内方面へ折れ滋賀県をめざした。後続が来ないので待っていると15分遅れでやって来た。国道脇で通過車両の注目を浴びつつ小用をタシテいたそうな！オヤジパワー全開のお二人であった。

天候に恵まれた日曜日、ツーリングの連中が何十台も追い抜いてゆくのに気を取られ、林道の入口を見過ごしてしまった。林道の峠で琵琶湖を遠望しつつお別れのお昼にする目論見も崩れ、滋賀県の高時川川原でのラーメン昼食になったのが残念だ。今回お二人にはこの上もないご迷惑をおかけしてしまった。心から感謝しております。いつかリベンジいたしますので懲りずにご参加ください。

記　赤貧